

遊工房アールスペース 年間報告書 2018



遊工房アールスペースのアーティスト・イン・レジデンス事業は
平成30年度 アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業として採用されました。

目次

・はじめに — 2018年、そしてこれからの展望

・遊工房アートスペースについて — ヴィジョン、ヴァリュー、ミッション

・寄稿 — 遊工房でのリターニー・アーティスト・レジデンス・プログラム サーラ・エクストロム

初めての海外、森川里海湿地藝術季Mipaliw Land Art 2018に参加して 森山泰地

1. 主要事業

1-1 AIRプログラム

1-2 展示プログラム

1-3 イベント - アーティストトーク、クリティック、セッションなど

2. 関連活動

2-1 AIR交流プログラム

2-2 Y-AIRの実践

2-3 ネットワーク活動

2-4 地域活動、コミュニティーアート

2-5 調査研究

2-6 アーカイブス

・出版物、掲載記事など

・2018年活動一覧 - Overview

* 本文中の記号について

文 文化庁 アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業

M マイクロレジデンス関連事業

Y Y-AIR(若手アーティスト育成・教育プログラム) 関連事業

E ECOC (欧州文化首都) 関連事業

R YRP, Youkobo Returnee Residency Program

2018年、そしてこれからの展望

2018年夏、記録的な猛暑の日本列島であった。

地球規模での温暖化現象のいち時期であったかもしれないが、温暖化対策、プラスチックゴミ憲章などなど、国内、国際間の対話の混乱にどの様に取り組むことが人類に求められているのだろうか。

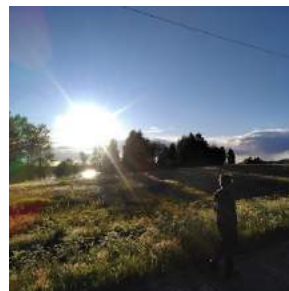
滞在する作家との対話からも、ため息ばかりの2018年であったような気がする。

しかし、アーティストの表現からは、未来への警告が読み取れる。

この夏、猛暑の直前の半月程、会合を伴う移動で、3か国を1週間ずつ巡回した時に感じたこと。

- ・フィンランド：氷、雪、星空の基の明るいはずの冬が近年暗い。
- ・英国（ロンドン、レスター）：政治と経済そして移民の混乱、我が国の近未来を見てきたような気がする。
- ・バルセロナ：1992年のオリンピックで一挙に都市大開発の地中海の大都市の色々は東京・2020にも当てはまるのだろうか？インバウンド政策が生んだ悲劇など。

アーティストの創作館・アーティスト・イン・レジデンス、Artist-runの活動を背景にマイクロレジデンスの仲間達と連携する活動（ネットワーク）、そして、Y-AIRの実践（アートワーク）を着実に展開・継続していくつもりだ。



Finland



UK

Spain

遊工房アートスペースについて

アートは社会と一体の不可欠なものであり、人々の生活に潤いと気付きをもたらすものです。

遊工房アートスペースは、独自のアート活動を通して、地域性と国際性、伝統文化と現代美術という一見異なる方向性を示す要素を繋ぎ、多様性が自然に受け入れられる場づくりや交流を実践しています。真摯に活動するアーティストの表現活動の支援と共に、地域社会の一員として、今後とも実践を通じたアート活動を継続していきます。

ヴィジョン

遊工房アートスペースは、多様な創作活動に応える実践の場となることでアーティストを支え、アートの社会的な役割とその重要性を提示することを目指しています。

バリュー(核となる価値観)

・開放性と交流:

アートは広く開かれるものであると同時に、異文化の人々のコミュニケーションと理解を育てるために必要なツールであると考えます。

・フレキシビリティ(柔軟性):

アートとアーティスト活動の本質に対して、私たちの活動はフレキシブルな取り組み方が不可欠であると認識します。

・自律性:

コミュニティや他の組織と強固なネットワークを保つことを大切にしながら、アーティストと遊工房自身の個性と多様性を維持します。

ミッション

真摯に活動続けるアーティストの創作・発表の活動を支援します。(AIR プログラム、ギャラリー・プログラム) 国内外のアーティストの交流、さらに地域社会の人々との対話を通じた相互理解の醸成を図り、多様性が受け入れられる社会の形成を目指します。(アート・イベント、トーク)

他の AIR センターやアートスペースとのネットワークを築き、より多くの人々がアートを楽しめる環境づくりに努めます。(Res Artis、J-AIR Network、AIR-J など)

人々がアートに接する様々な機会を生み出し、アートが社会にとって不可欠であるという認識を広まるよう努めます。

遊工房でのリターニー・アーティスト・レジデンス・プログラム

サーラ・エクストロム

(2018年遊工房レジデンスアーティスト)

2018年10月から11月にかけて、東京での30年にわたる重要かつ先駆的なアーティスト・イン・レジデンス活動を記念する、リターニー・アーティスト・レジデンスプログラムへの招待状を遊工房アートスペースから受け取ることができ光栄に思います。

2006年に初めて、また2009年にも遊工房アートスペースに滞在したことは、私の芸術活動にとって非常に重要でした。これらの滞在で日本のフラワーアレンジメントアート - 生け花 - について、私の個人的なアプローチの研究と発展を可能にし、日本の審美的文化をより探求することができました。一連の新しい作品を制作するために滞在が重要であったのみならず、その経験は私にとって非常に深いレベルで残りました。

遊工房アートスペースでの再招聘のプログラムは、私のアートに大きな影響を与えた場所を再び訪れるという重要な可能性を提供しました。2か月間には、ギャラリースペースでの3週間の展覧会の間に遊工房で制作された新しいアート作品を作ることと発表することの両方の機会が含まれました。展覧会のスケジュールと公園内のトロール展を結んで、より多くの聴衆を共有し、地元の文化関係者や芸術家や専門家と協働できました。

私の展覧会のプランは、事前にフィンランドで撮影した素材を東京の現場で撮影された素材と組み合わせるというものでした。映画を通して人々が環境問題に注意を向けることを望む、8mmフィルムで撮影された作品は、私たちが生み出しているゴミの山に焦点を当てています。それは、今や私たちのコントロールを超えて拡大し、一連のスライドは、都市の郊外にある埋め立て地の巨大なインキュベーターの中で合成プラスチックがゆっくり有機物と融合していく混沌とした未来の標本のようなものです。

作品制作の過程で、非常に興味深い日本の芸術家・鵜飼美紀の作品によって、私は、ポジティブで感動的な影響を受け、また彼女も同時に滞在制作で作品を発表しました。展覧会は遊工房アートスペースによってキュレーションされ、お互いが同時期に遊工房で隣接して展示をするためのアーティストとして選ばれたことを嬉しく思います。私たちの作品は、会話にあがるほど美しく、お互いに貢献し、そして作品を鑑賞し体験するための複数の可能性を開いたことは明らかです。

鵜飼美紀さんの時代を超越した、直接的で、強く、肉体的でありながら繊細な芸術、そして彼女の誠実な理解と物質的感覚、はかなさ、そしてバランスについて大いに賞賛します。遊工房がどのように展覧会をキュレーションするかについての洞察に満ちた方法にも感銘を受けました。

遊工房アートスペースで個性的な雰囲気醸成し出す人々との議論やミーティングの中で、私はアーティスト・イン・レジデンスがどのように機能するのか、そしてそれを続けるために何が求められるのかについて、少し理解を深めました。Youkoboがこれからも長年にわたって重要な仕事をしてくれることを願います。私たち、アーティストが創作する作品に直接影響を与え、日本の内外両方の文化の大使のように機能することで、彼らは芸術的基盤と国際的アーティストと日本のアーティストのための一時的な家としてのミッションを続けることができます。フィンランドの芸術家の間では、遊工房アートスペースは心からのコンセプト、つまり高く評価されている場として地位を確立しています。



Photo: Masaru Yanagiba

初めての海外、 森川里海湿地藝術季Mipaliw Land Art 2018に参加して

森山泰地

(2018年派遣アーティスト)

2018年8月、私は森川里海湿地藝術季Mipaliw Land Art 2018に出展する作品を制作するために台湾に一ヶ月滞在しました。これは私にとって初めての海外でのアーティストインレジデンス、そして初めての海外でした。

この展示の滞在制作は台湾花蓮県の東海岸沿いにある先住民の暮らす4つの部落に13組のアーティストがそれぞれ滞在して行われました。初めの5日間はウェルカムパーティーに始まり、各部落での儀式や、シンポジウムや、各アーティストのプレゼンテーションなどのプログラムがありました。私はそのプログラムの中で部落の食べ物を食べ、先住民たちと話し、アーティストと話し、風景を見たり、文化を見たりして、少しずつこの地域を知っていきました。アーティスト達との作品をプレゼンしあい、アートについて、また社会問題についてお互いの意見を語り合いました。私は海外のアーティストも同じ問題を共有していることを実感しました。そして私は台湾と日本の歴史、現代の問題についても知っていくことになりました。それはお年寄りや日本語で会話したり、先住民のお祭りに参加して一緒に踊ることで体感を伴って私に入ってきました。

私の滞在した部落は新社という場所でカヴァラン族の人々が住む村です。海沿いに美しい棚田が広がる田園地帯です。私の作品プランは、田んぼに水を張ってレンズを設置し、水面を滞留する流木やプラスチックゴミに太陽光による焦点が合い燃えることで痕跡を残してゆくというものでした。私はウハオという農夫の持っている田んぼを使わせてもらえることになりました。私の使うことになった田んぼは海に見える棚田の中にあるとても美しい場所でした。その田んぼの向かいにはウハオや弟のイマスなど地元の人が集まる溜まり場がありました。彼らは毎日朝から酒を飲んでいて、私が田んぼで作業していると「タイチ！サケノムヨ！」と大きな声で呼ばれます。私はその度に彼らと酒を飲み、煙草を吸い、檳榔を噛みました。彼らが飲んでいるのはビールか焼酎のお茶割りでした。つまみはウニを半分に割って指で食べたり、酔っ払いチンチンというナマコ酢のようなものを食べたりしていました。彼らの飲み会では日本のように一人でちびちび飲んではいけません。飲むときはオイ！と声をかけみんなで同時に飲むのです。そしてカンパイ！と言われたらグラスの中の酒を飲み干さなくてはなりません。私は毎日彼らと酒を飲んで仲良くなっていきました。彼らは私のインスタレーションを見てコレハジョウトウ！と誇らしげにしていました。彼らは僕の代わりに観光客に作品のコンセプトを説明してくれます。たくさんの人が車を停めて、作品を見たり写真を撮ったりしていました。作品はとても好評でした。私はこのレジデンスで本当にたくさんの人に助けられました。ディレクター、スタッフ、アーティスト、地元の人々。多くの人に支えられ作品を完成できたことをとても嬉しく思います。そしてこのレジデンスでみんなと出会えたことをとても嬉しく思います。私はこれからいろいろな国に行ってみたいです。



1 主要事業

1-1 AIRプログラム

2017.12.01 - 2018.01.31	アリ・サールト	文 R
2017.12.01 - 2018.01.31	アナ・サムソエ&アンドレアス・ストゥビュエ・ジョハンセン	文
2017.12.01 - 2018.01.31	ディビッド・フランクリン	文 R
2017.12.15 - 2018.01.03	マータ・グラシア	文 R
2018.02.01 - 2017.02.28	フローラ・スコット	
2018.02.01 - 2018.02.28	キーボム・クウォン	
2018.02.02 - 2018.02.28	エリック・シレ	R
2018.03.01 - 2018.04.31	ボアゾ・アハロノヴィッチ	
2018.03.01 - 2018.04.30	シャルロッタ・オストウルンド	文
2018.03.02 - 2018.03.31	アンネリ・カント	
2018.04.01 - 2018.04.14	カムル・F・カー & ミユキ・カサハラ	
2018.04.01 - 2017.04.30	ヘンリーカ・リンボン	
2018.05.01 - 2018.06.30	リン・クズィン	文
2018.05.01 - 2018.06.14	アリス・ジェイコブス	文 M Y
2018.05.03 - 2018.05.29	エレナ・マディ	
2018.06.01 - 2018.08.26	マリア・モリエダス・ディエス	文 M Y
2018.06.22 - 2018.07.31	トゥリー・リットヴァック	文 M Y
2018.07.01 - 2018.07.31	エリザベス・ベリヴォ	
2018.08.01 - 2018.08.31	ジュリア・エレン・ランカスター	
2018.08.01 - 2018.08.31	エスター・エラード	
2018.08.07 - 2018.08.31	グラハム・エラード	Y
2018.09.01 - 2018.09.30	ニコラ・モス	R
2018.09.01 - 2018.09.30	ジェフリー・ポアリエ	
2018.09.06 - 2018.11.29	カリソライテ・ウヒラ	文
2018.10.01 - 2018.11.30	サーラ・エクストロム	文 R
2018.10.01 - 2018.11.29	鵜飼美紀	文
2018.12.01 - 2019.01.31	アンティ・ニューソラ	文 M
2018.12.02 - 2019.02.28	リリアン・オニール	文
2018.12.04 - 2019.01.31	スヴェトラナ・フィアロヴァ	文 M E

2017.12.01 - 2018.01.31 アリ・サールト[フィンランド] ヘルシンキに拠点を置く写真家であり、講師。1990年代半ば以降、殺人や処刑が行われた場所、都市空間での脅威、自殺、ホームレスやうつ病などのテーマを扱ったプロジェクトに取り組んできた。サールトは、肖像画、記憶、臨場感、空間、時、光と動きに興味を持っている。遊工房では、ピンホールカメラをいくつか作り、これらの要素を試した。ピンホールカメラで肖像画を撮り、スローモーションビデオも制作し、オープンスタジオにて発表した。	
2017.12.01 - 2018.01.31 アナ・サムソエ、アンドレアス・ストゥービーエ・ジョハンセン[デンマーク] サムソエは、選択したメディアで音響現象を生成し調査して制作する、デンマークのアーティストである。ジョハンセンは、デンマークのサウンドアーティストと音楽家であり、モジュラーシンセサイザーや自家製楽器を扱っている。主にパフォーマンスやサウンドインスタレーション、磁気自己演奏の楽器や彫刻を供し活動している。滞在中、2人のアーティストは、セラミックスの構造と電気の構造を混合したインスタレーションを制作し、オープンスタジオにて発表した。	
2017.12.01 - 2018.01.31 デイヴィッド・フランクリン[アイルランド/スペイン] Youkobo Returnee Residency Program 2017招聘アーティスト。スペイン・バルセロナ在住のアイルランドのビジュアルアーティスト。主に絵画、ドローイング、ビデオを扱う。滞在中は長期プロジェクトの第1段階を開始し、東京の都市環境が舞踏や創造活動に与える潜在的な影響を観察するため、舞踏家のドキュメンタリーも並行して実施した。ビデオインスタレーションやドローイングなど、さまざまなメディアに取り組み、オープンスタジオにて発表した。	
2017.12.15 - 2018.01.03 マータ・グラシア[スペイン] Youkobo Returnee Residency Program 2017招聘研究者。2009/2010年に遊工房 Global Internship Programmeで活動したバルセロナを拠点とする研究者。当時、スペイン及びラテンアメリカのAIR事情の調査研究を行い、J-AIR会議で成果発表。その後も相互に継続してきたAIRに関わる調査研究は、Microresidence Network、バルセロナのAIRポータルサイトArtMotileの始まりとなった。滞在中はMicroresidence Networkや世界のネットワーキングについて情報共有・議論を重ね、オランダ大使館や藤野のレジデンスプログラム等へも訪問調査、議論の場を持った。	
2018.02.01 - 2018.02.28 フローラ・スコット[イギリス] 英国のアーティスト。彼女の修練は、物と進行中の物の追究に関わるものである。彼女は、我々が生活している周りの日常的な物に興味を持っており、物との出会いに反応し、物質世界と我々との関係について考える作品を制作するため、日常的な「モノ」の氾濫している今日に於ける意味を考察する。滞在中、現代の日本の消費者文化と伝統文化の双方に内在するものから、象徴的な言語と社会的重要性に焦点を当て、終盤ではオープンスタジオにてインスタレーションを発表した。	
2018.02.01 - 2018.02.28 キーボム・クウォン[韓国] 韓国のビジュアルアーティスト。彼は、アンビグイティ・シリーズの最近の作品に興味を持ち、アンビグイティ・シリーズの曖昧さと不安定さについて視聴者に問いかけている。人体の横断面を見せて、そのすべてを再結合してあいまいな画像を作成する。滞在中、これまで継続してきた主要研究プロジェクトの1つを展開し、東京の道、建築、都市固有の空間などを観察し、終盤のオープンスタジオにて実験的な写真を発表した。	

2018.02.02 - 2018.02.28 エリック・シレ[スロバキア] スロバキアを拠点にヨーロッパで活躍する新進気鋭のアーティストで、綿密かつ大胆な画面構成のアクリルペインティングが特徴である。彼は2013年にも遊工房で滞在制作をしており、今回は、インスタント・ファッション・ヒット、多国籍企業、生態学的荒廃等のテーマで、急速な世界で「正しく」生きる方法について、またどのように地域社会の中で自分の居場所を見つけるのかについてを検討し制作し、終盤のオープンスタジオにてドローイングを発表した。	
2018.03.01 - 2018.03.31 ポアゾ・アハロノヴィッチ[デンマーク] 彼の作品に現れる緊張感の由来は、画像から離れたり向かったりする二元的な動きの結果である。多数の画像が収集され、それらはひとつのイメージに替り、華々しく魅惑的で、且つ恐ろしいイメージになる。彼の作品は、デジタル時代に画像に対する私たちのコントロールと私たちのコントロールに関して、かつてなく関連性のある疑問を提起している。滞在中、彼は「日々の修練プロジェクト」を行い、30日間の滞在に関するドキュメンテーションを作成した。	
2018.03.01 - 2018.04.30 シャルロッタ・オストゥルンド[スウェーデン/フィンランド] フィンランド在住、スウェーデン生まれのビジュアルアーティストである。彼女の作品は、しばしば、つつまじやかな物で作られ、其々すべてが、やさしくきちんと組み立てられ、時には人工的な構成要素も使うが、ほとんどの作品が植物の部分で構成されている。滞在中、彼女は花の芸術や庭園、そしてそれらが持つ自然と植物との関係を様々な方法で探求し、伝統的な技法をリサーチした。終盤のオープンスタジオでは、植物素材を基本要素とする彫刻作品を発表した。	
2018.03.02 - 2018.03.31 アンネリ・カント [フィンランド] 提携国際機関推薦プログラム (Union of Finnish Writers) 招聘ライター。フィンランドの作家、劇作家で脚本家である。独創的な作家であり、その作品は子供向け、歴史小説、演劇やテレビのシリーズ脚本も含まれている。文学作品は、フィンランドの歴史、特に1918年と1600年のフィンランドの内戦に焦点を当てており、迫害された魔女や殺人鬼、あるいは武器の中の赤い女のような、特別な人々について描いている。小説の多くは、演劇用にドラマ化されている。滞在の終盤に内戦に着いてのトークイベントを実施した。	
2018.04.01 - 2018.04.14 カムル・F・カー & ミユキ・カサハラ [イギリス/日本] カルム F. カーはパフォーマンス、彫刻、音を用いて表現するアーティストである。ミユキ・カサハラはロイヤル・カレッジ・オブ・アート(RCA)で修士号を取得し、ロンドンを拠点に活動。遊工房で滞在中、カルムは「青の洞門へのカルムのロード」として九州と東京の歴史的、文化的な関係を考察。ミユキは福島県の富岡町にある夜の森の桜並木を訪ね、1954年の杉並区を中心とした水爆禁止署名運動の調査など日本で歴史的な反核運動と進行中の核問題を扱った。	
2018.04.01 - 2018.04.30 ヘンリーカ・リンボン [イギリス] 提携国際機関推薦プログラム (Union of Finnish Writers) 招聘ライター。フィンランドで生まれ、スウェーデン語を話す詩人である。ヘルシンキを拠点に活動中。1988年にデビューして以来、彼女はいくつかの詩集や小説、エッセイを出版している。また、フィンランド語からスウェーデン語への詩の翻訳もしている。彼女は幼い頃から日本に強い関心があり、日本文化の影響を受けた詩集や初来日の際の紀行などを執筆している。滞在中は能を鑑賞し、新作の着想を得た。終盤には日本語を交えた詩の朗読会を実施した。	

2018.05.01 - 2018.06.30 リン・クズィン [ルクセンブルク] リン・クズィンは、そのユニークで独特な手書きイラストレーションにより、脚光をあびているルクセンブルクのアーティストである。彼女は建築を学び、卒業後はオフィスワークをしていたが、この環境では自身の芸術的な面を十分に表現できないことに気づき、2016年より独学のイラストレーターとしての活動に切り替えた。滞在中、東京での生活を絵日記のようにドローイングを制作し、終盤にはドローイングや壁画を発表した。また、大使館でも作品発表をした。	
2018.05.01 - 2018.06.14 アリス・ジェイコブス[イギリス] London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2018招聘アーティスト。イギリス人のパフォーマンス・アーティストで、彫刻やインスタレーションをパフォーマンスに取り入れている。彼女は、細心に吟味された場所に自身を置き、一旦選ぶと、彼女の身体の寸法に合わせたサイトスペシフィックな彫刻は、亡きもの、または本来の目的を失ったものを整える。滞在中は舞踏のワークショップに参加したり、インタビューをするなどの調査をした。終盤では、芸大金工研究室の協力を得て彫刻作品を制作し、インスタレーションと一夜限りのパフォーマンスを発表した。	
2018.05.03 - 2018.05.29 エレナ・マディ[フィンランド] 提携国際機関推薦プログラム（Union of Finnish Writers）招聘ライター。バルト海に浮かぶ古風な小島で執筆をしている作家である。美しいフィンランドの自然に対する彼女の愛情は、その文章にも散見される。スタンフォード大学で教育を受けた国際人でもあり、人類を結びつけるものを模索している。また、イラストレーター、シンガー・ソングライターとしても活動している。滞在中は次の小説「Words」で架空の日本を舞台にした場面を執筆した。終盤にはトークイベントも実施した。	
2018.06.01 - 2018.08.26 マリア・モリエダス・ディエス[スペイン・バスク] 提携国際機関推薦プログラム（スペイン・バスク自治政府ビスカヤ県文化部）招聘アーティスト。スペイン・バスク出身のアーティスト。ビスカヤ若手アーティスト支援プログラム「ERTIBIL BIZKAIA」で最優秀賞を獲得。滞在期間前半は、女子美術大学アートプロデュース表現領域・日沼研と学生の協働活動を実施し、中間報告として、co-ume lab.にて制作中の作品をオープンスタジオで公開。また、滞在の終盤では活動の成果として映像作品と写真をオープンスタジオにて発表した。	
2018.06.22 - 2018.07.31 トゥリー・リットヴァック[イギリス] London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2018招聘アーティスト。ロンドンを拠点に活動。精神や身の回りの環境、空間に存在する「表裏」の境界がどう影響し合っているかを考察し創作する。日本の伝統・現代の美や治癒の習慣や理想追求、テクノロジーとの関係に関心がある。滞在中、遊工房が西洋医学から東洋医学鍼灸院へと変遷したことを構想の源に国内作家と共同でパフォーマンス作品を創作をした。終盤では活動の成果として映像とインスタレーションをオープンスタジオにて発表した。	
2018.07.01 - 2018.07.31 エリザベス・ベリヴォ[カナダ] カナダ出身のアーティストであり、4冊の劇作家でもある。現在は、コマ撮りアニメーションと立体表現に取り組んでいる。彼女はデジタル媒体と対話をしながら、立体と映像表現の交点を探求し、高価または安価な素材と科学技術を用いて様々な素材を観察する。滞在中は生け花教室に通い、伝統的な生け花文化にインスピレーションを受けながら、新たなコマ撮りアニメ作品と付随する立体作品を制作し、その成果をオープンスタジオにて発表した。	

2018.08.01 - 2018.08.31 ジュリア・エレン・ランカスター[イギリス] ロンドンに拠点を置くビジュアル・アーティスト/製作者であり、キュレータ。主に粘土を用いた制作をしており、芸術における“製作”とデジタル社会と共に21世紀に失われた技術への探求を通して展開している。彼女の作品は、日常的な物、工芸品、習慣、などの観察を通して、鑑賞者に対する“流れ”の移動のアイディアに熟考している。滞在中には、地域住民から“個人的”な物を集め、その物の背景となる物語をインタビューを通し記録した。終盤ではその成果として展覧会を開催した。	
2018.08.01 - 2018.08.31 エスター・エラード[イギリス] Makerversityのジェネラルマネージャー。Makerversityは、ロンドンのSomerset Houseに本部を置く、イギリスで最も象徴的なメンバーシップコミュニティであり、ワークスペースである。創造的なビジネスを発展させるべく、Makerversityの創造的・技術系企業家コミュニティへのサポートに力を注ぐ。ロンドン芸術大学での講義や一般に向けた公開ワークショップを実施するなど、創造的な実践家への支援を続ける。滞在中、Makerversityでの活動及び国内調査の報告会を実施した。	
2018.08.07 - 2018.08.31 グラハム・エラード[イギリス] アーティスト。1998 年以来、UAL/Central Saint Martins校の常勤教師を務め、現在は美術学部の教授とアートプログラムの研究リーダー。アーティストとして、1993年からスティーブン・ジョンストンとコラボレーションし、作品は博物館やギャラリーで国際的に展示されている。2015年から継続実施しているLondon/Tokyo Y-AIR Exchange Programのアドバイザーとして、滞在中は参加作家の講評やプログラムフォローアップ、来年度に向けた議論を実施した。	
2018.09.01 - 2018.09.30 ニコラ・モス[オーストラリア] 紙を用いた制作をするオーストラリアのビジュアルアーティスト。持続可能とは何かという問いかけを基に、自然保護と開発のバランスを見つけ、健全な環境の価値を考えるように人々に問い掛ける。2017年遊工房に滞在した際、地域/世界の緑地問題の議論の中で、異文化交流やコミュニティとの関わりを開始。今回は都市の緑地を探索しながら、異なる季節の東京の緑の風景を表現し、昨年滞在時の会話やアンケート結果、見聞から制作した作品にオーストラリアでの成果を加え、2年越しの成果展を開催した。	
2018.09.01 - 2018.09.30 ジェフリー・ポアリエ[フランス/カナダ] フレンチ・カナディアン人のインスタレーションを主に扱うアーティストである。彼は建築とプレゼンテーション用ディスプレイに触発された、ハイブリッドな構造として作品を発展させてきた。彼のインスタレーション作品は、現代の科学的考察との距離を確認しながら論争の対象を感覚的な形で展開させている。滞在中、彼は新しい材料の可能性を探った。母国で控えている展覧会で発表する大型インスタレーションのプロトタイプを製作し、その成果をオープnstudioにて発表した。	
2018.09.0 - 2018.11.29 カリソライテ・ウヒラ[トンガ/ニュージーランド] 提携国際機関推薦プログラム（New Zealand Foundation）招聘アーティスト。トンガ生まれ。彼はアイデアを表現して鑑賞者の内省を促すため、メタファーを使用する。作品を通して、彼は都市のホームレスのような、文化的、社会的、政治的テーマを探求し、如何にして海洋が、遠く離れた異国の人々を繋ぐことができるかを探る。彼は、日本のトンガコミュニティをリサーチし、伝統的なトンガ人の概念が西洋/東洋の観念とどのように交差しているかを調べ、その成果としてインスタレーション及びパフォーマンスをオープnstudioと公園を会場とした地域の国際野外アート展「トロールの森」にて発表した。	

2018.10.01 - 2018.11.30 サーラ・エクストロム[フィンランド] Youkobo Returnee Residency Program 2018招聘アーティスト。美学的、概念的に的確な成果を生み出すため、映像や写真、テキスト、インスタレーション、多様な媒体の実験に取り組んでいる。様々なイメージが結合し、現実と虚構、成長と衰退、魅力的なものとともに不快なものが互いに競い合う。彼女は変化の重要性を吟味する、一方で、我々の従来の物事を分類する方法に疑問を呈している。滞在の終盤では、「トロールの森」と連携し、8mmフィルムで撮影した映像作品や写真、インスタレーションを成果展として発表した。	
2018.10.01 - 2018.11.30 鵜飼美紀[日本] 主にラテックス（液体ゴム）を用いたインスタレーションを制作。薄い皮膜状にラテックスを広げ視界・行動を遮るように配置する。一方で、ガラスの器に水を張るインスタレーションも展開。滞在中は、床から立ち上がるように張り巡らされた薄い皮膜状のラテックスのインスタレーションを制作し、同時期に滞在していたサーラ・エクストロムとの対話を通じた共同制作も実施した。その成果展は「トロールの森」と連携し、遊工房スタジオにて発表した。	
2018.12.01 - 2019.01.31 アンティ・ニューソラ[フィンランド] 国際AIR間プログラム（Finnish Artists' Studio Foundation）招聘アーティスト。伝統に基づく絵画作品を制作する一方で、切り取った物や防水シート、粘着テープ、シール、紙など、様々な異なる種類の日用品を用いて、作品を作る。崇高で高貴なテーマは、低級あるいはカウンターカルチャーから精通する美学を利用しながら扱う。作品は抽象と表象、絵画と彫刻の間にある、あるいはそれらが共存したものである。滞在中、ユニークなハンドメイドのアーティストブック制作を継続するつもりである。	
2018.12.02 - 2019.02.28 リリアン・オニール[オーストラリア] 提携国際機関推薦プログラム（Asialink）招聘アーティスト。大規模なアナログのカラーージュに取り組む。それぞれの作品はそのスケールと物語において、哀愁を帯びた宇宙観、過ぎゆく時間の封入、壮大な廃墟、有史以前の神話、エロチシズムと死を主張する。それらはカラーージュのプロセスによって、自然とテクノロジーに直面して複雑で神話的、かつしばしば皮肉なシナリオを構築する。滞在中、彼女はアーカイブやプレデジタルの本、雑誌などからオフセット印刷のプレデジタル写真を調達する予定である。	
2018.12.04 - 2019.01.31 スヴェトラナ・フィアロヴァ[スロバキア] 国際AIR間プログラム（K.A.I.R.）招聘アーティスト。実践において、習慣的な境界に同調し、有限性についての考察を論破しようとする一方で、媒体としてのドローイングを絶えずに展開する。彼女はスロバキア及び世界の美術史における形式的特徴を取り入れつつ、現代のヴィジュアルアートの流行を融合させる。滞在中、彼女は日本の社会構造、特に日本における女性の地位や役割について探求したいと考えている。この活動は、男性優位や性別の固定概念等の根源など、彼女の進行中の研究に結合する。	

1-2 展示プログラム

2018.01.24 - 2018.01.28	アリ・サルート[フィンランド] 東京 冬の光とノイズ
2018.01.24 - 2018.01.28	アナ・サムソエ、アンドレアス・ストゥービエ・ジョハンセン[デンマーク] POWER PHYSIQUE チカラ カタチ
2018.01.24 - 2018.01.28	デイヴィッド・フランクリン[アイルランド/スペイン] CURSE
2018.02.24 - 2018.02.25	フローラ・スコット[英国] Mottainai - もったいない
2018.02.24 - 2018.02.25	キーボム・クウォン[韓国] 曖昧な場所
2018.02.24 - 2018.02.25	エリック・シレ[スロバキア] 殉死と新生の冒険
2018.03.21 - 2018.03.25	灰原千晶、室井悠輔 [日本] 相手の作品を自分の作品で記述する
2018.04.11 - 2018.04.28	金沢 寿美[日本] 消して、みる
2018.04.18 - 2018.04.28	郷治竜之介[日本] ~
2018.04.13 - 2018.04.13	カムル・F・カー & 笠原みゆき [英国/日本] OPEN STUDIO
2018.04.25 - 2018.04.28	シャルロット・オストウルンド[スウェーデン/フィンランド] OPEN STUDIO
2018.06.06 - 2018.06.10	川越 健太[日本] ランドスケープス
2018.06.06 - 2018.06.10	アリス・ジェイコブス [イギリス] No words to go around
2018.06.16 - 2018.06.24	リン・クズィン [ルクセンブルク] ざわめき・しじま
2018.07.25 - 2018.07.29	トゥリー・リットヴァック [イギリス] LATRO ● DECTUS
2018.07.25 - 2018.07.29	堀内悠希 [日本] Video Field
2018.07.25 - 2018.07.29	エリザベス・ベリヴォ [カナダ] 静物
2018.08.08 - 2018.08.12	川越健太・堀内悠希 [日本] ロンドン/東京 Y-AIR エクスチェンジ・プログラム2018 成果報告展
2018.08.21 - 2018.08.28	O JUN、水流智美、中川元晴、ニメイ、藤原信幸、地村洋平、杉山有沙、鈴木茜理、田辺希、濱田敬史、武蔵安里 [日本] 僕たちの光学
2018.08.22 - 2018.08.25	マリア・モリエダス・ディエス [バスク・スペイン] Triple X
2018.08.23 - 2018.08.26	ジュリア・エレン・ランカスター [イギリス] マイクロ博物館

2018.09.19 - 2018.09.23	ジェフリー・ポワリエ [フランス/カナダ在] OPEN STUDIO - The Ones with the Others
2018.09.19 - 2018.09.23	ニコラ・モス [オーストラリア] Tokyo Wild
2018.09.28	ジェフリー・ポワリエ [フランス/カナダ在] Final Exhibition - The Ones with the Others
2018.11.03 - 2018.11.23	カリソライテ・ウヒラ [トンガ] 時間を無駄にする：東京編
2018.11.03 - 2018.11.23	サーラ・エクストロム [フィンランド] 羊膜
2018.11.03 - 2018.11.23	鵜飼美紀 [日本] ものあい

2018.01.24 - 2018.01.28 アリ・サールト 東京 冬の光 と ノイズ 写真作品「東京 冬の光」では、天気の良い日に9分間という露光時間で人や真冬の光の庭を撮影した。これは、1850年代以前のスタジオでのポートレート撮影の環境と非常に近いものがある。写真撮影は、光を捉える優れた仕掛けであり、また、瞬間や過ぎ行く時間・存在を定着するものである。偶然にも、これは我々を写真撮影の歴史へと導く。ピンホール映像の「ノイズ」では、人々は無言で目を閉じ、耳を澄まし、自らに集中する。現代美術において、ローテクとハイテクが混ざること、果てしない可能性があると考える。	
	Photo: Ari Saarto
2018.01.24 - 2018.01.28 アナ・サムソエ&アンドレアス・ストゥビュエ・ジョハンセン [デンマーク] POWER PHYSIQUE チカラ カタチ 磁力や回転機関、陶を用いたサウンドインсталレーションであり、その音は磁性体や陶芸彫刻の中で作動しているセンサーによってコントロールされる。陶芸彫刻の固有な音響は、音に影響し、さらなる効果が適用される。両者の芸術実践とコラボレーションは、音響心理学と音響論に対する高い関心によって特徴づけられている。特に、音響学の分野における彫刻的でパフォーマンス的な関係性の立証に興味がある。	
	Photo: Ari Saarto
2018.01.24 - 2018.01.28 デイヴィッド・フランクリン CURSE 2009年滞在時の活動にも通ずる、新しい長期プロジェクトを始動した。日本の景観の様々な様相や、それがどのように形作られ、人間の活動にどう影響するか、特に文化との関連や戦後の影響を探究するものである。同時に、環境が私たちの思考や行動に与える微妙な影響を調べる方法として、舞踏家の動きのプロセスもインタビューを通し調査した。展示では、前回滞在時に撮影した映像を用いて制作された2つの映像作品と現在取り掛かっている作品、新しい実験の成果を発表した。	
	Photo: Ari Saarto
2018.02.24 - 2018.02.25 フローラ・スコット Mottainai - もったいない 神道儀式における無生物への霊魂信仰の崇拝と敬意とは対照的に、大量消費主義で明白な物質の欲求と消耗の双方を探究した。作品は、滞り開始直後に参加した針灸養の行事からインスピレーションを得ており、東京の道端を散歩しながら拾い集めた、全ての小さく、壊れた、さもなくば見落とされた物についての記念碑であり休息場を制作する。一度見落とされ、物質としての熱が消失すると、これらの物理的な欠片は、塩や紙粘土の床に埋葬され包装される。	
	Photo: Kazuo Yoshida
2018.02.24 - 2018.02.25 キーボン・クウォン 曖昧な場所 2010年の春からニューヨーク、ソウル、ロンドン、東京、シンガポール、北京などの都市を巡り、興味深い色彩、空間、建築構造等を写真に収め、ぼんやりした写真を切って形を無くし、抽象化させた作品を制作。それらをそれぞれの都市を代表する創造的なイメージ、また現代の東洋と西洋の都市文化によって形成された複製物であると捉え、空間が持つ時代や出来事を研究し、それを代弁する被写体を探した。抽象化させる過程は過去と未来に対する被写体の意味であり、それが持つ価値に対する同時代的な質問でもある。	
	Photo: Kazuo Yoshida

2018.02.24 - 2018.02.25 エリック・シレ 殉死と新生の冒険 作品を墓碑と捉え、それは、忘れられたもの、紛失したものの、欠けているものを描いた、死の忘備録とした。暗い色がゆるやかに伸び、正面から見通すと、あるいは、背景の純粋な黒い面によって、上からの眺めを置き換えている。燃えている廃墟、空虚と主な死、喪失、悲しみは、悲劇的な形に向かって彼を動かす。彼は伝統的な日本の版画、妖怪、侍、切腹、失われた悪魔と食べ物に触発された。	
2018.03.21 - 2018.03.25 灰原千晶、室井悠輔 相手の作品を自分の作品で記述する Youkobo Y-AIR Studio Program. 昨年に引き続き、東京芸大新修士課程グローバルアートプラクティス専攻選抜展として開催。人々の歴史認識や共同体意識、またそのプロセスに関心を持つ灰原千晶とグラフィティから影響を受け、アウトサイダーアートへの関心を持つ室井悠輔の2人が組んだ展覧会。全く異なる方向性の彼らが互いの制作あるいは作品について、各々の作品制作を通して記述を試みた。同時代の者同士が正面から取り組むことで新しいコラボレーションの在り方を問う機会となった。	Photo: Kazuo Yoshida 
2018.04.11 - 2018.04.28 金沢 寿美 消して、みる 1979年兵庫県生まれ、韓国籍。 2009年から描き溜めてきた数百枚に及ぶ新聞紙の上のドローイングを使いインスタレーションを展開した。政権交代という文字の横で嬉しそうに手を振る政治家の顔。机に転がっていた鉛筆でいたずらに黒く塗りつぶしていたら、思いがけずきれいなものが姿を現した。作品は日常を覆う“いつもの時間”をゆっくりと消すことで、私達の世界にある“見ているはずの見えていないもの”を浮かび上がらせる。	
2018.04.18 - 2018.04.28 郷治竜之介 ~ 『チルダ (tilde) は、波線符号（はせんふごう）、チルドともいい、記号「~」のこと。スペイン語ではティルデ (tilde)、ポルトガル語ではティウ (til) と呼び、鼻音に関する音をあらわすダイアクリティカルマーク（発音区別符号）の一種として使われる。もともと、字母の上に N を小さく書いたことから生じた記号である。母音の上部に付されると、母音の「鼻音化」をあらわす。文字の下部に付されると、きしみ声をあらわす。文字に重ねると、軟口蓋化または咽頭化をあらわす。』	Photo: Masaru Yanagiba 
2018.04.13 - 2018.04.13 カムル・F・カー & 笠原みゆき OPEN STUDIO 映像や立体物、音を通して、日本での研究旅行をマッピングした。2017年にカルムは九州を訪れ、僧侶禅海によって18世紀に掘られた耶馬溪にある青の洞門を記録した。18年には、禅海が生まれた浅草を探索し、「カルムの青の洞門への道」プロジェクトを継続展開した。一方、笠原は1954年から始まった水爆禁止署名運動という、杉並区の隠れた歴史を調査した。滞在中、彼らは福島県富岡町にある「夜の森桜並木」を訪問。トンネルは2.2kmあるが、放射線数値が高いため、わずか300mまでしか立ち入ることはできなかった。	Photo: Masaru Yanagiba 

2018.04.25 - 2018.04.28 シャルロッタ・ オストウルンド OPEN STUDIO 滞在中、彼女は東京や京都で庭園や生け花などを調査し、それらが持つ自然と植物との関係を様々な方法で探求した。遊工房の庭や近隣の公園などで集めた花びらや葉などを主の構成素材とした、繊細な彫刻作品を制作した。わずかな風でも揺れ動く軽やかさ、そして日が経つにつれ、色や状態が変化していく様からは命の儚さや美しさを感じさせた。	
	Photo: Masaru Yanagiba
2018.06.06 - 2018.06.10 川越 健太 ランドスケープス 写真は表面としてボタンを作る。一般的にボタンは幾何的な規則や図形の反復によって構成されるので、それをボタンと呼ぶのはいささか疑問に思われるかもしれない。しかしそのような指摘を踏まえてもなお、それはボタンだと思われる。風景画の歴史は装飾の発生と関わっている。別の言い方をすれば、象徴的な意味作用が空間的なコンポジションを獲得するプロセスと考えることができるかもしれない。似たような、しかし異なる形として、個々のボタンと複数の表面を繋ぎ合わせる規則を、ここでは風景と呼び直してみたい。	
2018.06.06 - 2018.06.10 アリス・ジェイコブス No words to go around 話す際に身振りをを用いるとき、言葉は必要ない。大部分の文脈におけるコミュニケーションは、土方巽が「表現しないで表現する」*ように、記号表現を表現することである。この言葉は、シンボルをどのように使うかを定義づけ、言語に関係なく、我々は関連性を共有する。言語がもはやコミュニケーションの形でない時、言葉を越えた身体的動作を用い、これらはコミュニケーションのきっかけである。彼女は、鑑賞者と行為の間で関連づけられる対話を駆り立てるためにパフォーマンス・ジェスチャーを用いた。	
2018.06.16 - 2018.06.24 リン・クズィン ざわめき・しじま 彼女は、東京がダイナミックな街であると同時に、平穏な側面も持ち合わせていることに関心を抱き、街や人々の賑やかな様子、そして路地の静けさや人々の穏やかさの対比を作品に反映した。小さなイラストレーションから大きな壁画まで手がけた。1万人を超えるフォロワーに向けて活動を発信し、大きな反響を得た。成果発表展は遊工房とルクセンブルク大使館の2会場で開催した。	
	Photo: Masaru Yanagiba
2018.07.25 - 2018.07.29 トゥリー・リットヴァック LATRO ● DECTUS 過去・現在の習慣がどのようにテクノロジー（身体の機械化、そしてテクノロジーのヒト化に連れて、それらの習慣がどう変化しているか）と配列するかを探求した。遊工房が鍼灸院であったことを構想の源に、国内作家と共同で制作したパフォーマンス映像とインスタレーションを発表した。また、レセプションでは1日限りのマッサージ店を開き、携帯電話のバイブレーションで施術をする体験型パフォーマンスを実施した。	
	Photo: Masaru Yanagiba

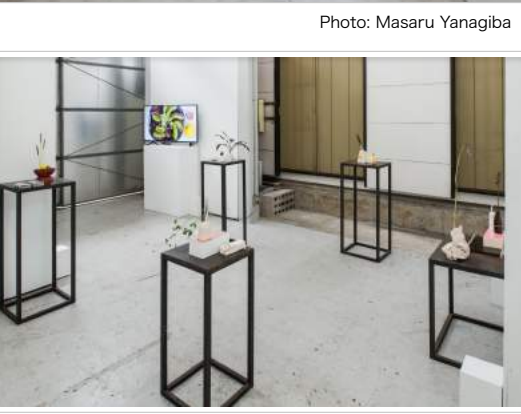
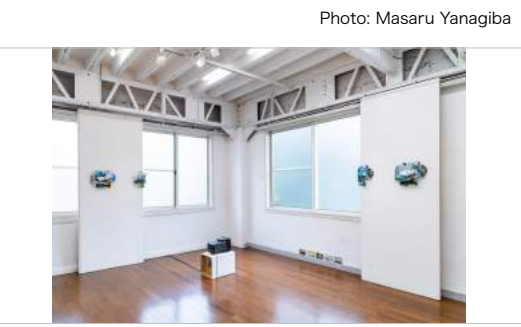
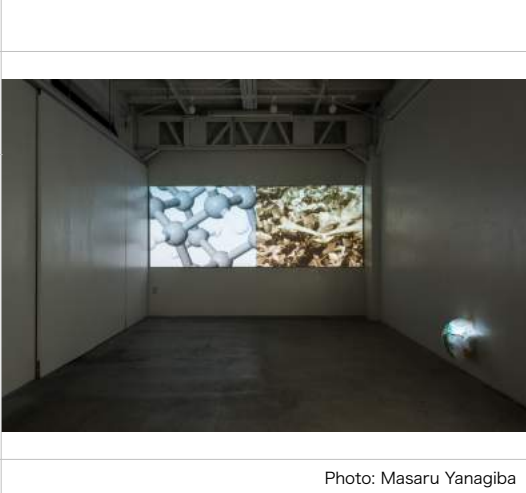
2018.07.25 - 2018.07.29 堀内悠希 Video Field ビデオの語源はラテン語のvidere(見る/to see)の一人称単数形、つまり“私は見る/I see”という意味。真っ黒な画面や白い天井、長すぎる単調な映画なんかを眺めているその時こそ、何かを“見ている”という行為に近づくことができる。あるいは反対に、飛行機の座席についたモニターで、画面に映る地図は明らかにユーラシア大陸と空を意味していても、それは地平線に分けられたただ二つの色面に見える。まだ名前はなくて、いつか降り立った日にそこにも名前がつく。いまはまだ抽象の形。	
2018.07.25 - 2018.07.29 エリザベス・ペリヴォ 静物 フェミニズムの視点を持ちながら、現代の静止画やメメント・モリを探索している。デジタル立体やコマ撮りアニメ、そして生け花という儚い芸術媒体を用いて、オブジェの社会的・経済的な状態と素材の物語的な可能性を探っている。オランダ黄金時代では、静止画はしばしば花や食べ物の配置を含み、命の儚さと物質文化を反映したり、死を思い出させたりする象徴を持つ。滞在中、小原流の生け花を学んだことから影響を受け、日本におけるオブジェや食べ物、花からインスピレーションを得た。作品における立体物は、伝統的な型取りと3Dプリント・スキャンニングの手法を用いた。	
2018.08.08 - 2018.08.12 川越健太・堀内悠希 ロンドン/東京 Y-AIR エクスチェンジ・プログラム2018 成果報告展 London/Tokyo Y-AIR Exchange Programを通してロンドン(Acme Studios)と東京(Youkobo Art Space)で6週間の滞在制作を終えたばかりの川越健太・堀内悠希による展示・報告会。両者両都市で制作発表した作品や新作を展示するとともに、プログラムアドバイザーを招き、公開講演会を実施した。今後の活動で改めて意識すべきことなどを認識する新たな出発点となった。	
2018.08.21 - 2018.08.28 O JUN、水流智美、中川元晴、ニメイ、藤原信幸、地村洋平、杉山有沙、鈴木茜理、田辺希、濱田敏史、武蔵安里 僕たちの光学 2016年、OJUN教授と藤原信幸教授の交友を背景に両研究室間で計画された、東京芸術大学の油画第3研究室とガラス造形研究室の総勢11名による協働グループ展。「ガラスと絵画、互いの場所から見慣れぬ風景を眺める」展示を「武蔵野の面影を残した窓の外の緑が印象的な会場」遊工房で実験に行うという興味深い試みであった。	
2018.08.22 - 2018.08.25 マリア・モリエダス・ディエス Triple X 2015年に開始したプロジェクト「TripleX」の東京編として実施した。管理された（コントロールされた）文脈の下、複数人の被写体を選び、それら人物の態度を同じ条件のもとで写真及び映像撮影している。この管理された環境がパフォーマンス的状况を生み出し、その状況に現れるパーツ毎に、個別の解釈を可能とする条件が確立される。演出化、迎合、因果関係といった要素がこの作品をプロセスを構成する。7月に女子美術大学co-ume lab.にて制作途中をオープンスタジオで発表し、8月に完成作品を発表した。	

Photo: Masaru Yanagiba

Photo: Masaru Yanagiba

Photo: Kenta Kawagoe

2018.08.23 - 2018.08.26 ジュリア・エレン・ランカスター マイクロ博物館 地域住民から「大切な手作りの物」を持ってきてもらい、持ち主にその物の背景となる物語をインタビューし、その物と写真やテキスト等の記録と共にマイクロ博物館を展開した。そこには、過去だけでなく、現在のコミュニティを反映するような場所となるよう、博物館の役割を打ち砕くという意図があった。テーマである“家”と全ての家に共通する物を表す一方で、“個人的”な物を我々がどのようにそれらを表現するかという選択によって違いを表した。	
2018.09.19 - 09.23, 09.28 ジェフリー・ポアリエ The Ones with the Others 彼は本来の用途とは異なる方法で素材を扱い、制作する。滞在中、彼はホームセンターや園芸店などで新たな素材を探求した。大理石を模した園芸用プラスチックタイルに日本らしさを感じ、その素材の持つ可能性を探るべく、様々な方法で試作を繰り返し、制作中の様子をオープンスタジオで公開し、帰国間際に完成した大型インスタレーションを成果展として1日間限定で発表した。	
2018.09.19 - 09.23 ニコラ・モス Tokyo Wild 2017年遊工房に滞在した際、フィールドワークから展開した切り紙のインスタレーションをオープンスタジオにて発表した。また会期中に来場者に向けて、庭や緑がもたらす自身への影響に関するアンケートを実施し、交流を通して、日本人の緑との関係性、思考を調査した。帰国後、同アンケートを母国オーストラリアでも実施し、今回の滞在ではその成果も作品に反映させ、2年越しの成果展を開催した。	
	Photo:Bozzo
2018.11.03 - 2018.11.23 カリソライテ・ウヒラ 時間を無駄にする：東京編 対話を通して、日本と太平洋諸国の歴史や類似点を描いた。彼の活動コンセプト「Maumau-taimi:時間を無駄にする（「マウマウ」はトンガ語で「無駄」の意味）」への探求の一部として、新しい身体表現を導いた。滞在中、彼は舞踏に触れたり、多くの日本人パフォーマーと交流し、グループパフォーマンスにも参加した。「トロールの森」では5時間に及ぶパフォーマンスを実施した。	
2018.11.03 - 2018.11.23 サーラ・エクストロム 羊膜 都市の外れにあるゴミ処理埋立地はその地域の文化、習慣、貧富といったあらゆるものを暴く複雑で不要な記録の堆積である。風に吹かれる時代遅れの衣服やプラスチック容器の中の残り物、打ち切られた社会福祉や放置された安い肉体労働が辺りを埋め尽くす。8ミリフィルムの映像と複数の写真を組み合わせた《羊膜》という作品において、フィンランドと日本で集めた材料を組み合わせることで、有機的な素材と人工合成物が融合し、ポリマー分子がDNAのようにふるまい、プラスチックの透明な膜の中で新しい生命が形成されていく視覚体験を創出する。	
	Photo: Masaru Yanagiba

2018.11.03 - 2018.11.23

鵜飼美紀
ものあい

ラテックスの皮膜で視界を遮る。そばを通ると皮膜はふわりと微かに揺らぎ、時とともに飴色はゆっくりと褐色へ変化してゆく。揺らぎ変化する不安定さの一方でゴムの強い匂いを放ち存在を主張する。皮膜によって遮られた視界の向こうにうっすらと透け見えるものは柔らかな秋の光か、わたしではない誰かか。皮膜は境界のようでありながら分断する何かではない。分断ではなく共有する範囲について目を凝らす。



Photo: Masaru Yanagiba

1-3 イベント、アーティストトーク、クリティック・セッション

アーティスト・トーク

2018.01.24 アリ・サルート「東京 冬の光とノイズ」
2018.01.24 アナ・サムソエ&アンドレアス・ストゥビュエ・ジョハンセン「POWER PHYSIQUE チカラ カタチ」
2018.01.24 デイヴィッド・フランクリン「CURSE」
2018.01.27 Youkobo Returnee Program: Talk Event with David Franklin
2018.02.24 フローラ・スコット「Mottainai - もったいない」
2018.02.24 キーボン・クウォン「曖昧な場所」
2018.02.24 エリック・シレ「殉死と新生の冒険」
2018.03.09 シャルロット・オストウルンド、ボアゾ・アハロノヴィッチ、アンネリ・カント「39サンキューアート・トーク」
2018.03.21 灰原千晶、室井悠輔「相手の作品を自分の作品で記述する」
2018.03.25 アンネリ・カント「フィンランド内戦から100年」
2018.04.11 金沢 寿美「消して、みる」
2018.04.13 カムル・F・カー & 笠原みゆき「OPEN STUDIO」
2018.04.22 郷治竜之介「〜」
2018.04.25 シャルロット・オストウルンド「OPEN STUDIO」
2018.04.25 ヘンリーカ・リンボン「Talk Event by Henrika Ringbom」
2018.06.08 川越 健太「ランドスケープス」
2018.06.08 アリス・ジェイコブス「No words to go around」
2018.06.16 リン・クズィン「ざわめき・しじま」
2018.07.27 トゥリー・リットヴァック「LATRO ● DECTUS」
2018.07.27 堀内悠希「Video Field」
2018.07.27 エリザベス・ベリヴォ「静物」
2018.07.28 マリア・モリエダス・ディエス「OPEN SUTIO @ co-ume lab.(女子美)」
2018.08.11 川越健太・堀内悠希「ロンドン/東京 Y-AIR エクスチェンジ・プログラム2018 成果報告展」
2018.08.25 O JUN,水流智美,中川元晴,ニメイ,藤原信幸,地村洋平,杉山有沙,鈴木茜理,田辺希,濱田敬史,武蔵安里「僕たちの光学」
2018.08.25 ジュリア・エレン・ランカスター「マイクログ博物館」
2018.08.25 マリア・モリエダス・ディエス「Triple X」
2018.08.26 エスター・エラード「トークイベント "Making in the City"」
2018.09.19 ジェフリー・ポアリエ「OPEN STUDIO - The Ones with the Others」
2018.09.19 ニコラ・モス「Tokyo Wild」
2018.11.10 カリソライテ・ウヒラ「時間を無駄にする：東京編」
2018.11.10 サーラ・エクストロム「羊膜」
2018.11.10 鵜飼美紀「ものあい」
2018.12.08 アンティ・ニューソラ、リリアン・オニール、スヴェトラナ・フィアロヴァ「Artist Intro」

クリティックセッション・講評会

2018.06.07 アリス・ジェイコブス、川越 健太 | ゲスト：OJUN（東京芸大）、山本和弘（栃木県美）
2018.07.26 トゥリー・リットヴァック、堀内悠希 | ゲスト：グラハム・エラード（CSM）、林卓行（東京芸大）
2018.07.27 トゥリー・リットヴァック、堀内悠希 | ゲスト：OJUN（東京芸大）、小山穂太郎（東京芸大）
2018.08.07 川越 健太、堀内悠希 | ゲスト：グラハム・エラード（CSM）
2018.08.12 川越 健太、堀内悠希 | ゲスト：OJUN（東京芸大）

ライブ・パフォーマンス、ワークショップ

2018.04.13 カムル・F・カー「OPEN STUDIO」
2018.04.22 郷治竜之介「〜」 | ゲスト：湯川静・Murderous Ink
2018.06.02 アリス・ジェイコブス「Liminal Structures」@アートスタジオDungeon
2018.06.08 アリス・ジェイコブス「No words to go around」
2018.07.27 トゥリー・リットヴァック「LATRO ● DECTUS」
2018.10.03 カリソライテ・ウヒラ「霜田誠二月例パフォーマンス・アート'18」@珈琲驢馬とオレンジ
2018.11.03 カリソライテ・ウヒラ「トロールの森2017 アートツアー」@善福寺公園
2018.11.07 カリソライテ・ウヒラ「霜田誠二月例パフォーマンス・アート'18」@珈琲驢馬とオレンジ
2018.11.11 カリソライテ・ウヒラ「時間を無駄にする：東京編」@善福寺公園
2018.11.17 カリソライテ・ウヒラ「時間を無駄にする：東京編」
2018.11.23 カリソライテ・ウヒラ「トロールの森2017 アートツアー」@善福寺公園
2018.11.23 カリソライテ・ウヒラ、サーラ・エクストロム、鵜飼美紀「アートわっか・すぎなみの鑑賞会」

2. 関連活動

AIR 事業の実践を通し、AIR がアーティストの活動の一つの要素となり、また同時に社会において大切な役割を持つ存在となることを目指す。アーティストの滞在制作、発表の機会と場としてのAIR活動をベースとした関連活動は、4つの柱で展開している。「AIR交流プログラム」は、国内アーティストの海外での活動の機会と場の創設も大切なミッションと考えて、海外AIRとの交換プログラムの推進、さらにAIR運営の実際の体験や、滞在者をサポートするインターンシップを通じた人材育成など推進している。また、「ネットワーク活動」は、国内外のAIRプログラム間、AIR活動支援機関などとのネットワーク活動を積極的に展開している。「地域活動、コミュニティアート」は、地域でのアートを通じた活動として、都立善福寺公園での野外アート展「トロールの森」へ継続参画などを行っている。「調査・研究」では、AIRの一層の顕在化、AIRと美大の協働による諸活動と調査研究は、関係者との共有を意図して、その活動成果の報告会や、資料閲覧なども継続展開している。特に、マイクロレジデンスの存在、そのネットワーク活動との連携を重点にしている。2013年AIRと美大の協働から生まれた「Y-AIR」概念の実践活動は、その後新たな関連活動の柱とした。また、遊工房への再来日の作家の行動を通し、作家自身の活動推移と共に、AIR運営プログラムの変遷の視点も加えた、双方の視点から活動評価する試みとして「Youkobo Returnee-residency Program, YRP」を、AIR開設1989年から30周年を迎える年を節目に2017年からは始めている。

2-1 AIR交流プログラム

アーティストの滞在制作・発表の場と機会としての作家受入の継続と共に、国内作家の海外活動機会の創出を都度実施している。活動は派遣のみならず、多様な形で活動展開している国内外のAIR間の交流を通じた交換プログラムへの発展にも繋がっている。詳細は[webへ](#)

AIR間交換プログラム 2018

遊工房では海外からの作家の受入と共に、作家、AIR機関との接触から生まれる交流として、国際AIRプログラム間のアーティスト相互交換プログラムを積極的に展開している。2018年としては次の2機関と実施。

・Finnish Artists' Studio Foundation (ヘルシンキ、フィンランド)

2017年にFinnish Artists' Studio Foundation(FASF)と交換プログラム開始の覚書を交わし、2年目の取り組み。FASFの運営するフィンランド国内のスタジオの中から、今年はヘルシンキにあるArtsu Project Studioと交換プログラムを実施。日本からは狩野哲郎、フィンランドからはアンティ・ニューソラが各2ヶ月間の滞在制作・発表をした。

本交換プログラムの活動報告は遊工房アートスペースにて開催：2019.01.25 16:00- 一般公開 20名参加
記録冊子「Finland Artists' Studio Foundation アーティスト・レジデンス交換プログラム 2018」

2018.05.01-06.30 狩野哲郎 (Artsu Project Studio)

2018.12.01-01.31 アンティ・ニューソラ (遊工房アートスペース)



・K.A.I.R. Košice Artist in Residence (コシツェ、スロバキア)

欧州文化首都2013を機会に始まったスロバキア コシツェ市のAIR、K.A.I.R.とのAIR交流プログラム6年目の実現。日本からは北條知子、スロバキアからは、スヴェトラナ・フィアロヴァが、それぞれ2ヶ月間の滞在制作・発表をした。

本交換プログラムの活動報告は遊工房アートスペースにて開催：2019.01.25 16:00- 一般公開 20名参加
記録冊子「Youkobo & ECoC 2018 交換プログラム, Activity Report Youkobo x KAIR 2018」

2018.10.01-11.30 北條知子 (K.A.I.R.)

2018.12.01-2019.01.31 Svetlana Fialova (遊工房アートスペース)



派遣プログラム 2018

作家活動支援と共に、異文化での滞在制作体験がもたらすあらたな発想、多様性を受け入れる社会形成につながるアーティストによる積極的な活動と据えている。芸術文化イベントなど、それぞれの開催に関わる招聘依頼を積極的に受け、自律活動するアーティストの発掘・推薦も積極的に推進している。2018年としては次の2機関と実施。

・City & Guilds of London Art School, CGLAS Researcher（ロンドン）

作家・加藤巧の目指す素材研究の観点から、親交のあるCity & Guilds of London Art School の学長Tamiko O'Brien氏に紹介し、実現した。絵画材料についての知識が蓄積されている絵画の保存修復の場と制作の場を往復することで、現代までつながっている材料史を問い直すことを絵画の制作につなげようと試みた。滞在の終盤では、学内で成果発表展を開催した。

記録冊子「加藤巧 | 2018年ロンドン滞在制作記録」

2018.04.18-09.30 加藤巧



・2018森川里海湿地芸術季（花蓮、台湾）

台湾の芸術家 Pan Sheau-Shei (Yuki) 氏（台北現代美術館館長）との交流から2012年来続く、台湾でのアートプロジェクトへの派遣プログラム。台湾花蓮県の東海岸沿いにある、先住民の暮らす4つの部落に13組のアーティストがそれぞれ滞在して行われた。作家・森山泰地は新社というカヴァラン族が住む、海沿いの棚田が広がる田園地帯で滞在制作した。田に水を張ってレンズを設置し、水面を滞留する流木やプラスチックゴミに、太陽光による焦点が合い、燃えることで痕跡を残してゆく作品を制作発表した。

活動報告 本年報寄稿文

2018.07.28-08.25 森山泰地



2-2 Y-AIRの実践

2013年から「Y-AIR構想」（AIR for Yonug）と称し、美術系大学の諸先生方の理解と支援を得ながら、美大生や美大卒業生がAIRにアクセスしやすい環境作りを目指している。AIRと美大の協働（マイクロの存在であるAIRとマクロの存在である美術大学との協働）を通し、その実施・活動評価をまとめ、持続可能な交換プログラムの仕組みづくりにつなげる。詳細は[web](#)△

・London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2018

ロンドン芸術大学CSM校と、現地のStudio創作スペース運営組織・Acme Studiosの間で 2013年より始まった若手作家支援プログラム ASP(Associate Studio Program)と、東京藝大油画研究室と遊工房アートスペースによる同様のY-AIR Studio Program(次項)との、相互交換プログラムで、2015 年から始まったもの。

2018年はその4年目の活動。5-7月の3ヶ月、日本側から堀内悠希と川越健太が、UK側からは、アリス・ジコブスとトゥリー・リトヴァックが各6週間、両都市相互での滞在制作、調査・研究をした。

記録冊子「London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2018 活動報告」

第1グループ（前半）：2018.05.01-06.14

アリス・ジェイコブス（遊工房アートスペース）⇔ 堀内悠希（ASPプログラム）

第2グループ（後半）：2018.06.15-07.31

トゥリー・リトヴァック（遊工房アートスペース）⇔ 川越健太（ASPプログラム）



・Yokubo Y-AIR Studio Program 2018

遊工房スタジオでの在京若手作家の活動支援プログラム。2018年の3年目は、前年度と同様、協力美大の東京藝大の参画を得て、美大卒業後間もない新人作家の活動の場となるもの。上記交換プログラムと重ねて実施するため、会期中、上記交換プログラムとしての6週間のロンドン滞在制作及び発表の機会と共に、前後して各6週間の独自スタジオ活動を展開する。期間中、ゲストを招いての展示発表や批評、同時期の遊工房AIRプログラム参画の海外滞在作家や研究者との交流・対話の機会が多々ある。また、8月に活動の総括として、展覧会と報告会を開催。

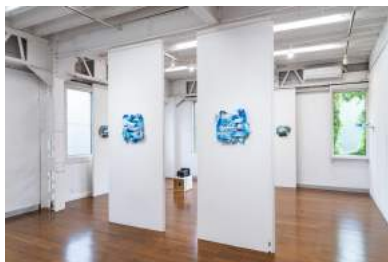
- 川越健太：スタジオ活動 2018.05.01-06.14

- 堀内悠希：スタジオ活動 2018.06.15-07.31

合同スタジオ活動2018/8：成果発表展&報告会

評論家による批評の実施：会期中3回実施

山本和弘 (栃木県美)、OJUN (東京芸大)、林卓行 (東京芸大)、Graham Ellard (ロンドンCSM)



・ Young Basuque Artists' Residency in Japan, 2018

2018年新たに始まったスペイン・バスク自治政府ビスカヤ県文化部との共同プログラム。バスクの若手アーティスト支援プログラム「ERTIBIL BIZKAIA」受賞者の日本での滞在制作・交流プログラムを遊工房とStudio Kura（福岡）の共同で受入れる活動を開始。2018年の最優秀賞を獲得したマリア・モリエガス・ディエスは遊工房で3ヵ月の滞在制作、成果発表は8月に遊工房で開催した。滞在期間前半は、遊工房と女子美術大学アートプロデュース表現領域・日沼研と協働活動に参加、後半は遊工房での滞在活動の成果発表を実施。記録冊子「MICRORESIDENCE 2018! バスク若手アーティストの日本滞在制作の活動記録」

本プログラムの活動報告は遊工房アールスペースにて開催：2018.08.24 15:00- 一般公開 20名参加

2018.06.01-08.26 マリア・モリエガス・ディエス



・ Y-AIR Artist Exchange Program, Finland and Japan, 2018

長野県東御市で2016年から始まった国際芸術祭「天空の芸術祭」のAIRプログラム開設の機会に、イベント主催・東御市及び協力機関の東京藝大からの要請をもとに計画がスタート。現地実行委員会、藝大研究室、また、類似の環境芸術祭の経験豊かなフィンランドとの縁をもとに、AIR交換プログラムの継続推進仲間ArtBreak・AIRプログラムマネジャーとLapland大学（Rovaniemi市, Finland）の協力で始まった試行プログラム。

2018年日本からは亀倉知恵が、フィンランドからはVenni Ahlbergがそれぞれ3ヶ月間の滞在制作をし、「天空の芸術祭」に両者出展した。本交換プログラムの活動報告はフィンランドセンターにて開催：2018.10.31 18:00- 一般公開 50名参加

記録冊子「Y-AIR・フィンランドと日本の試み・Part 2 - AIRと美術大学の協働」

2018.07.01-09.30 亀倉知恵

2018.08.16-11.05 Vennzi Ahlberg



・Y-AIR 海外派遣プログラム - 西ボヘミア大学ArtCamp 2018

チェコの地方都市Pilsen市にある西ボヘミア大学で毎年夏に開催されているアートの国際サマースクール「ArtCamp」に、2013年より国内美術系大学教官（研究室）の協力を得て、美大生およびアーティストを派遣するプログラム。異文化での短期滞在型(3週間)創作交流機会は、アートとの研鑽と共に、国際交流に挑戦するもの。

2018年は、Campへの受講者7名、Camp講師役アーティスト1名を派遣。西ボヘミア大よりArtCampコーディネーターと共に国際関係担当の副学長を招き、本活動報告及びこれまでのチェコでの活動を総括するシンポジウムをチェコセンター東京にて開催：2018.11.09 18:00- 一般公開 50名参加

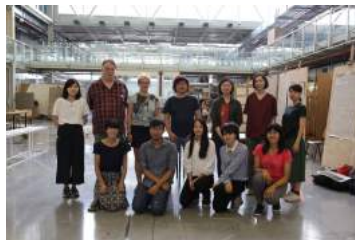
記録冊子「MICRORESIDENCE 2018! 'ArtCamp'を通して考えるAIRと美術大学の協働」

2018.07.23-07.27 稲垣立男：「Bunjinga as a conceptual art practise」講師担当

2018.07.09-07.27 細矢瑠羽、駒場春音、クドリック華子、若松はるか、久保美貴、飯島早矢加

(秋田公立美術大学、東京芸大学、女子美術大学より受講生派遣)

2018.07.09-07.27 水谷朋代（黄金町エリアマネジメントセンター より受講及びリサーチ）



・Y-AIR 講演

女子美術大学

2018.05.14 アートプロデュース演習Ⅱ（3年生遊工房訪問）アリス・ジェイコブス、リン・クズイン、村田達彦、辻真木子

2018.06.04 アートプロデュース演習Ⅱ（3年生向け）マリア・モリエダス・ディエス

2018.06.18 アートプロデュース演習Ⅱ（3年生向け）マリア・モリエダス・ディエス

2018.06.25 アートプロデュース演習Ⅱ（3年生向け）マリア・モリエダス・ディエス

2018.07.27 - 30 アートプロデュース・遊工房 コラボレーション企画「OPEN STUDIO X展」マリア・モリエダス・ディエス

2018.11.16 特別公開講座「国際交流文化概論B」サーラ・エクストロム

武蔵野美術大学

2018.05.17 絵画科公開講座「Art & Communication」アリス・ジェイコブス



2-3 ネットワーク活動

AIRが社会的な存在となることを目指し、国内外のAIRネットワーク組織への参画と共に、2012年より創設したマイクロレジデンス・ネットワークを通じた独自活動を展開している。各AIRプログラム間やAIR活動支援機関との繋がりなど、様々なネットワーク活動を通じ、AIR利用者であるアーティストや研究者などの活動機会の一層の顕在化、活動機会創出、活動支援や運営の資金の捻出など直接の活動支援と共に、さまざまなAIR活動の共同研究などを行なっている。詳細は[web](#)へ

■ 2018年のネットワーキングトピックス

・「Trans Cultural Exchange 2019」参加、Quebec City, Canada。2月22日～24日
アーティスト活動支援の国際団体Trans Cultural Exchange, Boston, US の2年毎の国際会合。
2019年2月、カナダ・ケベック・シティで開催、遊工房とMicroresidence Networkとして招聘受け参加。2日目セッション「Mapping Mobility: Resources for Artists, Looking to Find Opportunities in Europe and Beyond」にて、「Microresidence Network」の現況をプレゼン、世界各地域ネットワークのパネリストと議論、情報共有が図られた。会期中のPecha Kucha Nightでは遊工房の紹介プレゼンを実施。会合の後NYCに回り、「ISCP」、「TriAngle」などを親善訪問。
活動報告



・ラウンドテーブルディスカッション「アートを支える現場-AIRを中心に」参加。京都。2月21日
京都芸術センターの主催する「AIR Alliance Platform」のラウンドテーブルとして、「セルフビルドの場づくり」のワークショップに参画、京都、鳥取、東京の取組の実態と、アーティスト自身の活動への支援、スペースの在り方などの公開議論を実施。



・AIR国際会合「Res Artis Meeting 2019 Rovaniemi」, Rovaniemi市、フィンランド参加。6月20日
フィンランドで開催のRes Artis Meeting 2019 Rovaniemi 国際会合の公式サイドプログラムとして、Microresidence Network セッションを開催、ノルディック、バルト地域中心からのAIR関係者が集いネットワーキングできた。本セッションはフィンランドのMicroresidence仲間、Waria Artbreak の主導で企画。創設者としての基調報告の場を頂戴した。
活動報告



・Y-AIR・フィンランドとの試みの第2フェーズ検討のための現地訪問：6月18日～24日
国際芸術祭「天空の芸術祭」（長野・東御市）のAIRプログラムは、フィンランドとの若手作家の交換プログラムを組み込んだユニークな活動として2017年より始まった。6月、現地Lapland大学からの招聘で、現地大学訪問と野外展の視察実施。大学施設や制作ショップでのディスカッション、交流会、Oranki Art、Art li Bienneale ほか訪問、アーティストや芸術専門家との交流の良い機会となった。10月には、ラップランド大の2名の教官、Wariaと遊工房は、保科教授の東京芸大に集い、2019年の両大学間での協働活動計画の具体的な議論の場が持たれ2019年計画が具体化した。記録冊子「Y-AIR・フィンランドと日本の試み・Part 2 AIRと美術大学の協働」



・City & Guilds of London Art School (CGLAS)：研究滞在プログラムフォロー。6月26, 27日
芸術作品の保存・修復などの分野に特徴のあるLondonの美大、CGLASの研究者滞在派遣プログラムへアーティスト・加藤巧の6ヶ月派遣が2018年に実現。研究活動のフォローと共に、AIRと美大の協働の可能性に関して同大学長との会合を実施。
11月には学長の来日の機会もあり、研究滞在成果記録冊子への寄稿を頂戴した。
記録冊子「加藤 巧 2018年ロンドン滞在制作記録」



・studionAme, Leicester, UK、親善訪問。AIRと現地大学との協働の実態の視察。6月26日
英国・繊維工業の中心都市であったLeicesterのMicroresidence 仲間「studionAme」からの招聘を受け訪問。AIR運営と共に、地元大学（De Montfort大、Leicester大）との協働の実態を視察、AIRと大学の協働を進める積極的な展開を背景としたAIR同士の交換プログラムの開始を決めた。その後9月に、studionAme共同Directorの来日機会に2019年交換プログラムの覚書を交わした。



・ **Central Saint Martins, CSM, London 訪問。6月25日、27日、28日**

London/Tokyo Y-AIR Exchange, LTYE Program、CSM・ASPとの若手アーティストの交換プログラムの4年目フォロー。LTYEプログラム5周年の節目となる2019年、活動成果の総括する特別企画の検討実施。その後、8月にはLTYEプログラムのLondon側アドバイザーProf. Graham Ellard来日、同様のフォローと、5周年の展覧会&フォーラムの実現に関し芸大OJUN先生交え検討。
記録冊子「London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2018 活動報告」



・ **バスク若手作家活動支援のはじまり。6月～8月**

2017年春、AIR研究家・菅野幸子氏の紹介を得たスペイン・ビルバオ市のアートエージェント・Urtzi Arriaga 氏の仲介で始まった若手アーティスト活動の支援プログラム。2018年6月～8月の3か月、Studio Kura（福岡）との協働プログラム、3人の受入、内1人の東京、2人の福岡、相互の交流も意図した積極的な展開は、マイクロレジデンスらしい支援の在り方、マイクロとマクロの協働の実践を進める遊工房の新たな事例となった。
記録冊子「バスクの若手アーティストの日本滞在制作の活動記録-AIRと美術大学の協働」



・ **Art Camp、チェコのPilsen市の美大の開催する夏期キャンプの6年目。7月、11月**

7月9日～27日開催のArtCamp2018への参加は、講師派遣1名（稲垣立男）と受講生8名（女子美、東京藝大、秋美、黄金町AIR）の派遣となった。11月9日、チェコセンター東京(CCT)の協力のもと、「ArtCampを通して考えるAIRと美大の協働」をテーマのフォーラムを開催。西ボヘミア大学からArtCampコーディネーター及び国際担当の副学長の参加を得て、Camp参加者の活動報告、並びに参加者ともに、「AIRと美大の協働、Y-AIRの今後の展開」を議論した。チェコからの教官の来日の機会に、東京藝大、女子美、武蔵美の国際関係窓口への訪問機会を準備、交流が図られた
記録冊子「'Art Camp'を通して考えるAIRと美術大学の協働」



2-4 地域活動、コミュニティーアート

アーティストの社会的な存在を、その活動を通して広く認知してもらうことは、地域にある遊工房の大事な役割でもあると考えている。身近に現代アートに触れる機会として、遊工房自身が発信するイベントばかりでなく、地元都立善福寺公園での野外アート展「トロールの森」、地域の公立小学校での土曜教室「アートキッズ」などとの共催と共に、地域で活動する各種アート団体との連携も積極的に進めている。

トロールの森 2018

2018年は「不在」をテーマに開催（11月3日-23日）。「野外×アート」は、善福寺公園でのダイナミックなインスタレーションのほか、日・祝日を中心にしたワークショップ、多彩な身体表現を楽しむ野外劇場を展開。29組の作家たちが様々なプログラムで園内を賑わせた。「まちなか×アート」は、西荻窪から善福寺公園をアートでつなぐプログラムで、14団体が展示やパフォーマンスに参加した。遊工房アートスペースからは、カリソレート・ウヒラ（トンガ/ニュージーランド）が公園と遊工房Studio1の2サイトでパフォーマンスを展開。また、Studio2では鵜飼美紀 Studio3ではサーラ・エクストロムが展覧会を開催した。

カリソレート・ウヒラ 2018.11.03 - 2017.11.23 「時間を無駄にする：東京編」

対話を通して、日本と太平洋諸国の歴史や類似点を描いた。彼の活動コンセプト「Maumau-taimi:時間を無駄にする（「マウマウ」はトンガ語で「無駄」の意味）」への探求の一部として、新しい身体表現を導いた。公園では5時間に及ぶパフォーマンスを実施した。



サーラ・エクストロム 2018.11.03 - 2017.11.23 「羊膜」

8ミリフィルムの映像と複数の写真を組み合わせた作品において、フィンランドと日本で集めた材料を組み合わせることで、有機的な素材と人工合成物が融合し、ポリマー分子がDNAのようにふるまい、プラスチックの透明な膜の中で新しい生命が形成されていく視覚体験を創出する。



鵜飼美紀 2018.11.03 - 2017.11.23 「ものあい」

ラテックスの皮膜で視界を遮る。そばを通ると皮膜は微かに揺らぎ、時とともに鉛色はゆっくりと褐色へ変化してゆく。揺らぎ変化する不安定さの一方でゴムの強い匂いを放ち存在を主張する。皮膜は境界のようであり分断する何かではない。分断ではなく共有する範囲について目を凝らす。



トロールの森2018 春展

善福寺公園下池の森で、桃井第四小学校4年生たちの作品「森に遊ぶ子供たち」を展示（4月28日-5月6日）。

*「トロールの森」のはじまり

「トロールの森」は、都立善福寺公園（杉並区）を舞台に遊工房を中心にアーティスト主導の野外展示活動とし2002年に始まった、今年で16周年を迎える国際野外アート展。2011年開催10周年を機会に遊工房から地元の実行委員会主催に発展、2013年からはJR西荻窪駅周辺へとエリアを拡大し、カフェでの展示をはじめ、自然食レストランやビリヤード場を使った舞踏やマイム公演、まちの歴史をたどって歩くイベント等を実施してきた。

地域連携

地元小学校、アート系NPO、創作教室、ギャラリーなどとの連携も積極的に進めている。また、地域にあるリソースの活動としても地域連携は大事な側面である。

・桃井第四小学校

小学生が地域の活動を知るため、遊工房の活動紹介及びアーティストのスタジオを訪問し、交流をはかった。

2018.10.12 桃四小3年生の施設訪問、滞在アーティストとの交流

・NPO法人芸術資源開発機構(ARDA)

美術対話鑑賞ワークショップ「アートわっか・すぎなみ」の実践の場として、遊工房での展示やオープン・スタジオを活用。

2018.11.23 小学生の親子を対象とした対話型鑑賞のワークショップ実施

・すぎなみ戦略的アートプロジェクト

「ART @ heArt」に参加（事務局：杉並区・NPO法人TFF）

・西荻ワークショップ・アートマップ

西荻窪のオルタナティブスペースを掲載したマッピングに参加。（事務局：仙遊堂）



2-5 調査研究

AIR活動実践を通じた調査・研究活動として、自らの調査と共に、Face to Faceの対話をベースにAIR相互訪問をはじめ、寺子屋的な会合、公開のフォーラム、シンポジウム等の開催、参画などを積極的に展開。AIRの社会装置としての存在を社会にアピールする大事な活動である。研究・調査活動は報告としてまとめ、Webを通し公開し情報共有に務めている。予算次第で印刷発行も適時実施。

調査訪問・交流

2018.01.18-01.19 London/Tokyo Y-AIR Exchange Programフォローアップミーティング・UAL・CSM校（London）
Jaime Humphreys

2018.02.21-03.01 Trans Cultural Exchange 2018 - International Conference on Opportunities in the Arts（ケベック・カナダ）
Jaime Humphreys, 辻真木子

2018.03.16 ヴィラ九条山 AIRネットワーク（京都）村田達彦, 村田弘子

2018.06.19-06.22 フィンランド訪問（ラップランド大学, Oranki, Art li Biennale. ResArtis Meeting 2018 Rovaniemi, Microresidence Network Forum）村田達彦, 村田弘子

2018.06.26-06.27 イギリス訪問（StudiosAme, City&Guilds of London Art School, ArtActionUK, LTYEフォローアップ）
村田達彦, 村田弘子

2018.07.03 スペイン訪問（ArtMotive, Hanger）村田達彦, 村田弘子

2018.07.07-07.08 マイクロレジデンス間交流・Studio Kura 訪問（福岡県糸島市）Maria Muriedas Diez, 辻真木子

2018.10.13 天空の芸術祭2018（長野県東御市）、村田達彦

2018.11.20 藤野エリアマネジメント協議会、藤野AIR（神奈川県相模原市）、村田達彦、村田弘子

フォーラム・シンポジウム等

2018.02.21 ラウンドテーブル「Artist in Residence: Creating Spaces and Opportunities for the Arts and Artists」@京都芸術センター

2018.03.29 AIR NETWORK JAPAN ミーティング@AIT（東京）

2018.07.07 マイクロ・フォーラム「プレゼンテーション・ナイト」@Studio Kura（福岡）

2018.08.24 マイクロ・フォーラム「AIRと若手アーティスト」@遊工房

2018.10.31 フォーラム「FN/JPN LAB—アート、レジデンスプログラム、異文化交流関係者によるつどい」@フィンランドセンター（東京）

2018.11.09 アートフォーラム「チェコArtCampの魅力—ArtCampを通して考えるAIRと美大の協働」@チェコセンター東京

2018.11.18 遷東STYLE for AIRシンポジウム「まちと作品の関係を探るアーティスト拠点の可能性」@シーブスタジオ（東京）

2018.11.27 AIR Round-Table「首都圏AIRプレゼンテーション」@ベルギー大使館（東京）

寺子屋・ほんとうのはなし（ミニ・フォーラム）

2018.06.03 狩野哲郎「AIRs Vol.18 アーティスト・イン・レジデンスほんとうのはなし」（skype from Helsinki）

2018.10.06 森山泰地「AIRs Vol.19 アーティスト・イン・レジデンスほんとうのはなし」@遊工房

2018.11.28 北條知子「AIRs Vol.20 アーティスト・イン・レジデンスほんとうのはなし」（skype from Kosice）

2-6 アーカイブス

AIR実践をベースに関連する諸活動、マイクロレジデンスの一層の顕在化、AIRと美大の協働による無限の可能性の調査研究は、共有すべく活動報告として発表、また、調査したAIR情報は、遊工房滞在作家の活動記録と共に、アーカイブとしての整理を心掛けている。国内外のAIRプログラムデータ、滞在アーティ外の活動記録、調査研究の成果のアーカイブは順次閲覧できるようにしており、AIRへの参加の助言、AIR設立やネットワーキングの相談なども適時受付けている。AIRプログラムの調査・研究を通し、AIRそして「マイクロレジデンス」の顕在化する活動も進めている。アーティストと共に、社会でのその活動の意義が広く浸透することを願っている。

・出版物、掲載記事など

1. 出版物

-フィンランドの作家たち（その3） Finnish Writers in Youkobo 2018
-London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2018 活動報告
-'ArtCamp'を通して考えるAIRと美術大学の協働
-バスクの若手アーティストの日本滞在制作の活動記録 - AIRと美術大学の協働
-Y-AIR フィンランドと日本の試み Part 2 - AIRと美術大学の協働
-アーティストブック 「ものあい/羊膜」 Saara Ekstrom & 鵜飼美紀
-Finland Artists' Studio Foundation アーティスト・レジデンス交換プログラム 2018
-Youkobo & ECoC 交換プログラム Activity Report Youkobo x KAIR 2018

2. AIR展覧会カタログ、案内状など

会期	イベントタイトル・アーティスト	内容
2018.01.24 - 2017.01.28	POWER PHYSIQUE アナ・サムソム&アンドレス・ストゥビュエ・ジョハンセン	DM、カタログ
2018.01.24 - 2017.01.28	TOKYO WINTER LIGHT and NOISE アリ・サルート	DM、カタログ
2018.01.24 - 2017.01.28	CURSE デイビット・フランクリン	DM、カタログ
2018.03.21 - 2018.03.25	相手の作品を自分の作品で記述する 灰原千晶 室井悠輔	DM、カタログ
2018.04.25 - 2018.04.28	OPEN STUDIO シャルロッタ・オストゥルンド	DM
2018.06.06 - 2018.06.10	No words to go around アリス・ジェイコブス	DM
2018.06.06 - 2018.06.10	ランドスケープ 川越健太	DM
2018.06.16 - 2018.06.24	wild calmness リン・クズイン	DM、カタログ
2018.07.25 - 2018.07.29	LATRO ● DECTUS トゥリー・リットヴァック	DM
2018.08.22 - 2018.08.25	Triple X マリア・モリエダス・ディエス	DM、カタログ
2018.09.19- 2018.09.23	Toko wild ニコラ・モス	DM
2018.09.19- 2018.09.23	The Ones with the Others ジェフリー・ポアリエ	DM
2018.11.03 -2018.11.23	時間を無駄にする：東京編 カリソライテ・ウヒラ	フライヤー、カタログ
2018.11.03 -2018.11.23	羊膜 サーラ・エクストロム	フライヤー、カタログ
2018.11.03 -2018.11.23	ものあい 鵜飼美紀	フライヤー、カタログ

3. 掲載記事等

美術手帖 ART NAVI、月刊ギャラリー、Tokyo Art Beat、各国大使館・文化センター・交流機関 HP にて 滞在及び展示情報掲載

新聞

- ・「朝日新聞」11月2日掲載（トロールの森）
- ・「東京新聞」11月1日掲載（トロールの森）

情報誌

- ・『ランドスケープデザイン』10月23日販売（トロールの森）
- ・『ソトコト』12月号 11月5日（トロールの森）
- ・『中央線が好きだ。』vol.15（JR東日本） 9月19日発行（トロールの森）
- ・月刊『散歩の達人』11月号「祭り&イベントカレンダー」10月21日発行（トロールの森）
- ・『SUGINAMI ART SANPO イベントガイドVOL.02』杉並区文化・交流課（トロールの森）

ウェブサイト

- ・なみじゃない杉並（トロールの森）
- ・リビングむさしのweb 11月1日掲載（トロールの森）
- ・西荻ワークショップ・アートマップ（遊工房活動）

カタログ

- ・フィンランドセンターFIN/JPN LAB プログラムカタログ（交換、交流プログラム）
- ・TENKU Art Festival 2018 カタログ（交換プログラム）

書籍

- ・『西荻にいたピンクの象』西荻案内所編著 11月16日発行



2018年活動一覽 - overview

AIR Program													
	Space	Jan.	Feb.	March	April	May	June	July	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.
AIR	Residence 1	Ari Saarto	Kibeom Kwon	Charlotta Ostlund	Lynn Cosyn *Luxembourg	Elisabeth Belliveau	Julia Lancaster + Estera+ Graham	Kalisolaite 'Uhila *Asia New Zealand Foundation	Svetlana Fialová *KAIR				
	Residence 2	Anna Samsøe + Andreas Stoubye Johansen	Flora Scott	Boaz Aharonovitch	Calum F. Kerr + Miyuki Kasahara	Goji Ryunosuke	Alice Jacobs & Tuli Litvak *London/Tokyo Y-AIR Exchange Program	Y-AIR Exhibition	Jeffrey Poirier	Miki Ukai *YRRP	Antti Nyyssölä *FASF		
	Residence 3	David Franklin + Marta Gracia	Erik Sille	Finland Writers Union		Maria Muriedas Diez * Y-AIR Basque Program	Yuki Horiuchi & Kenta Kawagoe *London/Tokyo Y-AIR Exchange Program	Maria Muriedas Diez	Nicola Moss	Sara Ekstrom *YRRP	Lillian O'Neil *Asialink		
Studio 1													
Studio 2													
Studio 3													

Reciprocal Exchange Program													
Dispatch Program													



平成30年 文化庁 アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業



Microresidence Network



AIR_J



acmestudios
SUPPORTING ARTISTS SINCE 1972

: Double agents

City&Guilds
of London
Art School



LADISLAV SUTNAR
FACULTY OF DESIGN AND ART
UNIVERSITY
OF WEST BOHEMIA



チェコセンター
ČESKÉ CENTRUM

kair

u. slovak
arts
council



EUROPEAN CAPITAL
OF CULTURE

EU
JAPAN
Fest

Mipalve Land Art
MLA
2018
森 川里海
黒 地 基 新 子



Asia New Zealand
Foundation



Asialink
The University of Melbourne



LE GOUVERNEMENT
DU GRAND-DUCHÉ DE LUXEMBOURG
Ministère de la Culture



THE FINNISH INSTITUTE IN JAPAN



Suomen
Kirjailijaliitto



TAIDEPAUSSI



UNIVERSITY OF LAPLAND
LAPIN YLIOPISTO



とうみし
東御市
TOMI CITY OFFICE



GAP



秋田公立美術大学



国立大学法人
福井大学
UNIVERSITY OF FUKUI



東北芸術工科大学



東京造形大学
Tokyo Zokei University



Saitama University
埼玉大学



TROLLS
IN THE
PARK



ARDA (アルダ)
NPO法人 芸術資源開発機構

Youkobo Art Space Annual Report 2018

Edit : Youkobo Art Space

Zempukuji 3-2-10, Suginami-ku, Tokyo,

167-0041 Japan

TEL/FAX: 03-3399-7549

E-mail: info@youkobo.co.jp

URL: http://www.youkobo.co.jp

Published in Japan January 2019